

「新築より改修」住民投票で6割 鳥取市庁舎の耐震化

日経 2012/5/21

耐震性が低いと診断された鳥取市庁舎について、市が提案する新築移転と、市民団体が主張する耐震改修のどちらが妥当かを問う住民投票が 20 日実施され、即日開票の結果、改修支持票が6割を占めた。結果について竹内功市長は記者会見し「議会の意向などを確認し、結果を尊重したい」と表明した。

投票率は 50.81%。改修支持 4 万 7292 票に対し、新築支持は 3 万 721 票。市庁舎整備の在り方を巡る住民投票は全国でも珍しい。市議会によると費用は新築が約 75 億円、改修は約 21 億円。

市は旧市立病院跡地への移転を提案。反対する市民団体は約 5 万 4 千人の署名を集め、2011 年 8 月に住民投票条例制定を請求した。市議会はいったん退けたが、庁舎の耐震改修と一部増築の対案をまとめ、今年 3 月に全会一致で条例を制定、住民投票が実現した。〔共同〕